

京都大学経済学部同窓会会報

京都大学経済学部同窓会 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部内

ごあいさつ

目下の改革



京都大学経済学部同窓会理事長
大学院経済学研究科長
経済学部長
森棟公夫

学部長になって三年目に入りました。独立行政法人(国立大学法人)に変わってから五年目、第一期の中期計画も後一年程で終了します。大学では、第二期の中期計画の作成を始めています。中期計画では、六年間の目標を立てて公表し、三年目ならびに中期計画後に、目標の達成度を自己ならびに第三者が評価します。将来的には、その評価により、運営費交付金と呼ばれる学部の予算が斟酌されます。中期計画の作成も、自己評価も面倒な作業です。利点は、期間が六年であるため、予算も六年単位で考えることができるという原則です。従来は単年度主義ですから、毎年三月三十一日には予算の残額をゼロ円にしないといけなかったのですが、今は、残額を残しても良くなりませんでした。この原則はありがたいのですが、経済学部は予算規模が元々小さい学部ですので、あまりメリットがありません。特に、法経北館(図書室が入っている建物で一九七三年建築)は、耐震工事を控えています。耐震工

事の際には、工事費は文科省持ちですが、図書の移転費などは経済で工面しないと行けません。この費用を年々貯金しておきたいのですが、現状ではほとんど貯金がありません。法人化されてから、学部および大学院において様々な改組が行われました。目下の検討事項は、既存の経済学科と経営学科という二学科を、一学科に統合する事です。経済学科は創立以来あります。経営学科は昭和三十四年に設置され、以来五十年の年月がたちましたが、この二学科制を経営経営学科一つとします。根拠としては、経済と経営という分離が、今の時代に合わなくなってきたという事があります。現在の学術は、経済と経営の両分野にまたがる領域も多く、また、経済と経営に馴染まない科目もあります。そこで、二学科を統合し、経済理論・歴史、政策、マネージメント、ファイナンス・会計という四コースを設置します。学生は一回生、二回生において基礎的な科目を学び、また自分が集中的に勉強

したいテーマを選び、三回生からコースを中心に、専門科目を履修します。したがって、卒業生の皆さんが一度は属した、経済と経営の二学科は無くなってしまう。最近、文科省に、学生にどういう勉強をさせ、どういう人材を育てていくかを説明しないと行けません。これを履修モデルと言います。コース制の下では、履修モデルとしては、例えば、政策コースから経済政策、金融政策、労働経済論、公共経済学などの科目を取り、経済政策全般に関する知識を修得します。卒業後は、経済政策と関連した分野で仕事を探して欲しいと願っています。マネージメントコースも、みずほフィナンシャルグループの寄付講義「現代バンクング」などのように実践的な科目もありますから、社会に出る前に、実践的な知識を付けて欲しいと考えます。仕事としては、金融機関などが考えられます。ファイナンス・会計はテクニカルですから、高度に技術的な内容まで勉強して欲しいと考えます。大和証券グループ寄付講座による「証券投資の手法と理論」や、日本投資顧問業協会による寄付講義「アセットマネージメントの実務と法」といった実践的な科目も含まれています。経済理論・歴史コースはどのような人材育成を期待するか、これはかなり明らかではないでしょうか。経済の仕組みを考える、経済理論を深く学ぶ、

この二年間に起きた、学部の変化を整理してみます。五十人の論文入試枠を二十五人にしほり、理系入試枠二十五人を来年の入試から始めます。論文入試では、センター試験を元に、定員の三・五倍に足りるをします。論文二問の他、英語と国語を一般入試とともに受けました。したがって、文系色の強い入試となります。理系入試では、論文と同様にセンター試験で三・五倍に足りるをし、英語の他、理系の数学を取ります。国語は理系国語です。学部の三年から編入する三年次編入試験も、応募数を増やしたいので、英、独、仏から二カ国語選択を、一カ国語だけにしました。今年度から、大学院の三専攻を、経済学専攻に統合しました。これも専攻が時代の変化についていけないという状況から行なった変更です。専攻は、コースに変えました。近代経済学理論、近代経済学応用、経済政策、社会経済、歴史・思想史、経営学・会計学の六コースがこの四月一日から発足しました。修士

経済思想をまなぶ、歴史を学ぶなど、経済学部で学ぶ人たちが全員が深い知識を得たいという学問内容を持ちます。他に、コース中心に勉強をしない自由人も許します。このような改革の背後にあるのは、現状は、学生が学習計画を自分で考えて作成せず、単位が取り易い楽勝科目を選択している傾向が見られるからです。その結果だと思えますが、卒業時になって、自分は四年間で何を勉強したのか分からないという不満を聞きます。このような現状に対し、改革後は、学生がコースの中で科目を選び、自ずとコースにかかわる分野の深い知識を得ていくものと期待をしています。

の学生は、コースを選択し、コースに必要な選択必修科目を取り、専門科目に進みます。選択必修科目はコア科目と呼ばれる。OBの先生方にお伝えしたいのは、従来月二回開いていた教員協議会を、月一回にまとめた事です。今の先生達の忙しさに配慮して、拘束日を月一回減らしました。研究科会議も、学位審査が簡略化され、会議は一時間以内で済んでいます。寄付金を使って、教室の改善に努めています。演習室の机、椅子、プロジェクター、教室のプロジェクター、音響設備などです。しかし、法経二(三階)と法経五(一階)の二大教室の机・椅子が良くないのが悩みです。大教室を直すには、一室一〇〇万円ほどかかり、予算が足りません。しかし、この時代、私学を中心にアメニティーが非常に良くなってきているので、

何とかしたいものです。よく間違われますが、法経七は法学部の管理です。特記すべきは、E地下講読室のドアに大きな窓を付けたことです。中がよく見えるようになりました。同窓会の改革。これがこれからの大目標です。内容としては、入学時に、新入生を同窓会特別会員として受け入れようと考えています。このようにして、入学時から、同窓会の認識を高め、同窓会の若手会員を増やすことを目標とします。この改革では、入学時に寄付金をいただき、新入生の寄付金で、経済学会(経済論叢の発行)と同窓会特別会員(在学生)の活動を支えていければよいと話しています。新入生に寄付をお願いしますが、皆さんが、入学時に払われた経済学会会費納入は止めます。従来の同窓会の財政には影響を与えない、組織作りをしたいためです。

同窓会総会のご案内

平成20年度経済学部同窓会総会を下記の日時に開催いたしますので、何かとご多用のことと思いますが、会員諸氏お誘いあわせのうえご出席賜りますようお願い申し上げます。詳細につきましては、同封のご案内状を御参照下さい。

記

日時 平成20年10月25日(土) 14時30分~18時
場所 京都大学百周年時計台記念館

会費納入のお願い

平成20年度(20年4月~21年3月)の同窓会年会費5,000円を同封の払込用紙で、納入下さいようお願い申し上げます。

京都大学経済学部同窓会事務局

住所：〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-3419 FAX 075-753-3490

京都大学経済学部同窓会HP

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/dosokai/D-index.html>

なお、ご住所変更の折は、お知らせ下さいようお願いいたします。

近況報告

「忙中閑あり」

—福井もなかなか良いところですよ—



京都大学名誉教授

上總 康行

(平成十九退職)

京都大学を二〇〇七年三月に定年退職して日本海に面した越前・福井にやって来て早くも一年が過ぎました。JR福井駅から十キロほど離れた九頭竜川の河川敷に建てられた福井県立大学に現在は勤務しています。単身赴任ですので、大学の公舎と研究室とを毎日往復し、週末に京都の留守宅へ帰るといった生活が続いています。もっとも、最近には福井に居すわって週末にも仕事を増やしているのが悩みの種ではありません。

福井県立大学は、一九九二年四月、経済学部、生物資源学部、看護福祉学部の三学部と大学院を擁する県立大学として開学し、今年で十七年目を迎えました。キャンパスは、当時京都大学工学部教授で著名な建築家でもあった川崎清氏が設計しました。キャンパスには、白色と四角形を基調とする建物群とすべての建物を結ぶ回廊が設けられています。回廊のデザインは、カリフォルニアの青い空に映えるあのスタンフォード大学の回廊によく似ています。ただ回廊がコングリート（コンクリート）の打ちっぱなしであり、雪と雨の多い福井の気候に配慮して、回廊が二階建てにな

っていますので、見た目には、石造りとスペイン風のスタンフォード大学の回廊とをくらべると随分異なる様相であることは免れません。それでも、四年前の二〇〇四年三月十四日、ベンチャー企業の調査で米国シリコンバレーのベンチャー企業やスタンフォード大学を訪問した際に、同行していた京都大学大学院経済学研究所の日置弘一郎教授、徳賀芳弘教授、澤邊紀生助教授（現教授）、相山泰生助教授がカリフォルニアワインで私の還暦を盛大に祝ってくれたことを思い出すには十分です。

数年前に福井県立大学の教授であった中居文治京都大学名誉教授から研究環境が整っているのだから来ないかと誘いを受けて赴任してきましたが、昨年の公立大学法人化にともない、定年は短くなるは給与もカットされるということが後から分かりました。また当世どこの大学でも事情が同じであるように、福井県立大学でもけっこう教育と雑務に時間を取られます。しかも今年の四月から祖田修学長（京都大学名誉教授）から強い要請を受けて地域経済研究所の所長に就任しましたので、学内会議の

出席と研究所の運営、それに福井県や県内の諸団体から要請を受けて各種委員に奔走することとなり、まったくもって予想もしなかったほど多忙な毎日を送っています。しかも、公認会計士の試験委員を総理大臣から拝命していただきますので、新築なった霞が関の金融庁ビル十四階の会議室へ月に一回は通っています。財政難の折からこれ以上地方に新幹線は不要であるという意見をよく耳にしますが、福井から在来線の特急に乗って米原まで行き、そこで新幹線の「のぞみ」ではなく「ひかり」に乗り継いで東京へ出張するたびに、やはり福井まで新幹線の延長が必要かもしれないとひとり納得している次第です。

ここ数年間は、日本企業の優れた管理会計実務を理論化してそれを世界へ情報発信したいという強い思いから、私の後任である澤邊教授と歩調を合わせて、多くの企業のご理解とご協力をえて聞き調査を実施し、理論化に向けて研究を続けてきました。

地域経済研究所の所長に就任してからは、急に福井企業の経営者の方々とお話しする機会が増えましたので、福井の地でもリサーチサイトをいくつか確保したいと思っています。

まだまだ研究は道半ばです。で、精進して大きな夢を実現したいと思っています。京都大学の二倍はあるのかというゆったりとした研究室から緑の芝生に覆われた広いキャンパスを見下ろすことができず。いつも人影がまばらで、ここは女子大かと錯覚するほど女子学生が多い福井県立大学で、今日もまた研究と教育と雑務に励んでいます。毎日とはいきませんが、白山連峰から流れ出る美味しい水とそこの水で育った越前米を使って厳冬の越前で仕込んだ地酒を日本海でとれたばかりの魚で一杯やるのはなんとも贅沢なことですが、しかも名湯・芦原温泉まで出かけなくても、近くに立ち寄り温泉がありますので、多忙ではあります。まさに「忙中閑あり」、福井ライフを楽しんでいます。

私学に奉職して学んだこと

京都大学名誉教授

橋木 俊昭

(平成十九退職)



三分の一の少なさである。現に京大と同志社の一ゼミあたりの学生数を比較してもおおよその差である。京大の学生の方が先生・学生比では質の高い教育を受けていることになる。

これにもう一つの論点がある。それは学生が大学に支払う学費の差である。国立が一年あたり五〇万円強、同志社が一〇〇万円前後である。この差を考慮すると、京大の学生の方が少ない学費支払いでありながら、よりキメ細かい教育を受けているのであり、二重の意味で京大の学生は同志社の学生よりも恵まれている。この差が生じる最大の理由は、京大のような国立大学には多額の国費が投入されているのに対して、同志社のような私立大学には少額の私学助成金しか投入されていないからである。

このような国立と私学の間にある大きな差は不公平ではないか、という意見は当然ありうる。私学にもっと国費による助成金が拠出されるべき、という主張には根拠はある。しかし、十八歳人口の約半数が短大・大学に通うようになった大衆高等教育時代の日本であれば、そう容易に私学助成額を増加できない。他の先進諸国と比較して、公費の教育費支出額がGDP比率で低い日本なので、せめて先進諸国での平均比率にまで教育費支出を上げようとする文部省案に対して、財政赤字を削減したい財務省は、逆に国立大学の授業料を私立大学並に上げる案を主張して、文部省案を否定した。

かに多く、先生の数は大学にもよるが私学の方が州立よりも多い。一人の先生あたりの教育の質という点から日米を比較すると、私学の方が州立よりも恵まれているのである。なぜ私学がこのような良い教育をできるかというと、私学の授業料の額が非常に高いということ、私立大学には自己基金が豊富なことが手伝って、財政的に私学が豊かなことに原因がある。

日本の私立大学の授業料をアメリカ並に年額二〇〇〇万円にするには不可能である。日本の平均家計所得からすれば、この額は苦しい支出であると言えるからである。でもこの位の額にしないと、日本の私立大学が国立と比較して劣位であることは是正できない。

そうであるならば、唯一の政策は私学への国の助成額をもっと増額する案しか残されていない。このためには公費の教育費支出額を増加する案に期待がかかるが、日本の現状は政治の世界が小さな政府を目指しているのだから、能に近い案である。この現状をくつがえすためには、国民の大多数が日本の公費による教育支出をもっと増加する案に賛成してもらわなければならない。

日本は天然資源に恵まれず、唯一の資源は教育投資による人的資源しかないといっても過言ではない。国民が政治家に対して、もっと公費の教育費支出額を増加すべしと強力に主張する必要があるし、国民も増税した分が教育費に向かうのであれば、増税を認めてほしいものである。

公費の教育費が増加するのであれば、国立・私立を問わずに大学当局と先生も今以上に、学生の教育に熱心に取り組む必要がある。同様に学生も勉学に励む、という態度が必要である。これは言うまでもない。先生・学

二〇〇七年三月に経済学部を定年退職して、同志社大学経済学部へ奉職しています。国立大学と私立大学の双方で勤務という経験をすることができ、教育の問題をあらためて考える機会を与えてくれた。ここでは国、あるいは公共部門がどれだけ教育費支出をしたらよいか、とい

うことを議論してみたい。

京都大学経済学部は一学年の学生が二四〇名前後、一方同志社大学経済学部は八〇〇名を超えている。先生の数に注目すれば、京大も同志社も五〇名前後でほぼ差はない。単純に一人の先生あたり学生の数を比較すれば、京大の方が同志社よりも約

卒業生だより

自分の 「過去・現在・未来」

石井邦彦
(平八卒)



大学を卒業し十三年目になり、大学の同窓会会報に寄稿するに

生がいい加減な研究・教育しかしてないのであれば、国民は公費の教育費支出に賛成しないからである。
最後に、国立と私学の授業料に差はあってよい、ということ

要、というのがここでの結論である。すべての私立大学に助成金を増額することは、財政赤字の時期に不可能なので、質の良い教育を行なっている私学に限定する必要はある。一方において、質の悪い教育しか行っていない国立大学にあつては、公費支出の減額は当然あつてよい。
一つややこしいことを加えれば、大学での研究業績をどう反映させればよいかということ

あたり、自分の社会人生活を振り返ってみました。在学中は国際経済学の岩本ゼミの一期生でしたが、一番印象に残っていることは、ゼミのメンバーと一緒に他大学とイベントを行う第一回目のインゼミのまとめ役をした時のことです。当時の経済状況柄、テーマは「超円高の是非」で、何れか正しいほうが勝つのではない、論理的に議論を展開し相手を説得したほうが勝ちというルールでした。チームで議論を展開できるようにまとめ役として、時間をかけて勉強しレジュメを作り、とことん考えて論理を積み上げていったことを覚えていきます。
「世界で事業展開している会社でスケールの大きい仕事をしたい、自分の力が生かせる社風の会社で働きたい」と考えて、平成八年に当時の日商岩井、現在の双日に入社しました。最初の配属は大阪の財務部、新入の仕事は貿易金融の実務で輸出取引の書類をチェックして銀行に提出する定型の業務でした。商社がメーカーに代わって海外の取引先・銀行の与信を取って輸出する取引で、順調に取引金額

が拡大することで会社業績も良くなるものと理解していました。ところが、しばらくするとアジア・中南米で通貨危機が発生し、方向が大きく変わりました。アジアや中南米において、貿易取引の基本的な信用を供与する輸入国の銀行でさえ、外貨資金調達難により決済が滞るような経済危機に波及したのです。特定国への輸出停止や特定銀行を選定しての輸出継続への対応等、経済環境に応じて特別にリスク管理が必要な状況を実務の中で経験しました。
入社三年目には東京本社

の金属事業部門担当の経理部に異動しました。経理の立場で会社を見ることで、財務部の時とは別の視点で商社の取引について理解していくことになりました。ちょうどこの時期に、当時四兆円を越える資産を短期間で半分減らしていきような大きなリストラが始まりました。経理部で三年働いた後、情報システム子会社の上場支援業務を担当、その後、入社八年目で主計部に異動、ニチメンとの統合と同時に持ち株会社の財務経理部を兼務しました。連結納税・組織再編納税等の税務の専門担当として国内のグループ再編の支援を行いました。統合計画に従い、一四〇社近くあつた一〇〇％子会社を八〇社に集約し、連結納税制度を導入することで、八〇社の税務申告を損益通算する中長期的なタックスプランニングの仕事を担当しました。
今年になってようやく会社の格付が、入社当時の水準まで戻るなど、リスク管理体制の高度化、事業の選択と集中の成果が出て会社も安定してきましたが、厳しい環境で働いてきたことで、自分自身も成長したと感じています。今は決算業務や国内外への新規投資案件等を審議する業

節約・エコ生活 のススメ

上野淳子
(平十卒 旧姓 石川)



務をしています。徹底的に取引の過去の背景・将来の見通し・リスクの分析等を考える厳しい目で仕事をしています。
入社三年目で結婚し、妻と二人の娘がいます。これまで毎日のように忙しく、プライベートの時間が少ない生活でしたが、やはり家族に支えられてこそ、頑張ることができたと考えています。先日の母の日に三つのダイヤモンドが「過去・現在・未来」を意味するネックレスを妻に贈りました。忙しい毎日の中でふと立ち止まって自分の過去・現在を考えたとき、いつまでも家族や友人、お世話になつた方々への感謝の気持ちなど大切なものを忘れてはいけなさと改めて思いました。これからの人生においてもどんなに厳しい環境であっても、志を失わず前向きに生きて行こうと考えています。

私の職業は、サラリーマン兼主婦です。主婦といってもDIY NKSなので、家事の量は少ないし、夫も主夫をやってくれるので負担はほとんどありません。仕事も独身時代と変わらず、既婚者であることを理由にさぼらずにやっています。飲み会だって誘われれば積極的に参加しています。
高校を卒業してから親元を離

れて以来、ずっと家計をやりくりしています。家計簿は十年以上つけていますし、経済観念はしっかりしている方だと思つています。そんなこともあり、我が家の家計は私が管理しています。地方出身者どうしの夫婦が東京で暮らしていくのには相当のお金がかかります。家賃は生活費の半分を占め、帰省するのにもちよつとした海外旅行ツアーに行けてしまうぐらいかかります。節約しないといけない要因は大いにあるのですが、元来貧乏性な性格なのか、節約が趣味みたいになつていきます。ポイントカード、割引券の利用は当然で、一円でも安いものを買うことに喜びを感じます。たくさんあまつている有休を消化したいときは、天気の良い特売日にして、洗濯、掃除してから特売品を買いに行きます。するべき家事がいつばい、会社に来てい

る方が楽なぐらいです。光熱費についても主電源から切るのの当たり前で、使用量も毎月チェックし、前年同月よりも増えていたらガスの設定温度を下げる、エアコンを使わないようにするなど生活を見直しています。食事もあるべく外食は控え、買ってきた食材を全て使い切るように料理しています。自炊は食の安全の面でも、経済的な面でもいいことばかりです。また、帰宅してから料理をしているうちに会社であった嫌なことを忘れることもあり、気分転換にもなっています。
節約が趣味、なんて言うとかチとか貧乏くさいと思われなくてもあります。私は節約をエコと呼んでいます。食べきれない量の食材は買わない、電気ガス水道は無駄遣いしない、これはすでに生活の中で実践していることばかりです。リサイクル用に分別する、必要なもの

卒業して三年…

荻島 愛
(平十七卒)



しか買わないということでもゴミも減ります。ゴミを出すのにもお金がかかるし、環境にも負荷がかかるので、大事なことです。こんな節約・エコ生活を送っていると、社会のいろんなところで無駄が目につきます。業績改善のための合理化というのが私に与えられている業務でもありますが、会社においても実はとても簡単などころで経費を削減できるのでは、と思います。共働きをしている私は、帰宅すると家事をしないといけないし、夫婦でゆつくり過ごしたいと思つているので、無駄な残業や出張、接待は少ない方がいいと思つています。こういうサラリーマン主婦(主夫)が多数派になれば、会社の経費は大いに削減できるでしょう。もっともこうなつてしまうと、夜の街は静かになりお金が回らなくなつてしまいますから、従業員の賃金を上げて、たまには平日の夕食に家族そろって豪華な外食をすればいいでしょう。家族団欒もできるし、家事を任されているサラリーマン主婦にとっては家事の軽減にもなりますし、いいことばかりです。単身者も友人と食事したり遊びに行ったり好きに過ごせますし、こんな素晴らしいことはない、と思うのですが、いかがでしょうか。

みなさんこんにちは。私は平成十七年三月に京都大学経済学

部を卒業してから、この四月で三年になります。現在は東京の都心で大手ビジネスホテルチェーンのグループ会社の本社に勤めており、人事部として採用業務や社会保険業務を行っています。東京の都心で自宅と会社の往復を繰り返す日々を繰り返す中で頂いた今回の原稿執筆の依頼は、日々の生活に追われるばかりで視野の狭い私に「ちょっと立ち止まれ」とそっと肩を叩いて頂いているような気持ちになりました。この貴重な機会に、この場をお借りして今までの三年を少し振り返ってみたいと思います。

新卒で入社してからまる二年、私は地元京都で新しく開業したばかりのホテルのフロントに立っていました。フロントといっても仕事は接客だけではなく、宿泊プランの作成、客室の料金設定、旅行会社との交渉業務など、新入社員ながらもホテルの経営に係わるような業務も経験しました。入社当時、私の最初の配属先では正規の社員がほとんどおらず、新入社員ながらもすでに多くの先輩を持つこととなり、その上、多くの方が自分より年上の女性でした。慣れない状況に不安を感じた私はその時、自分にひとつの約束をしました。「お客様の前では自分が責任者になろう、年上の先輩の上に立つ」と。この二点を心に決め、自分なりの「ホテルスマイル」を武器にし、ただがむしやりに働きました。クレームを受けてしまった時には、お客様に頭を下げることで済ませるのではなく、お風呂場の電球の交換や、浴場のお湯の温度調節、ウォシュレットの修理など、自分でできると思ったことはなんでもしました。こんな話をする

かし、そうしてホテルの中を走り回っているうちに、フロントに立っているだけでは分らない接客において大切なことが少しずつ見えてくるようになり、お客様の滞在中の要望の大半に答えられるようになった気がします。その結果、一年後には恐ろしくみえた年上の女性たちに委縮することもなくなりました。そして何よりも、多くのお客様と仲良くなり、名前を覚えて頂いた時の達成感や言葉に表せないほど大きなものとなっていたのです。接客業に従事する人の多くが「お客様にありがとうと言われることが何よりも嬉しい」と感じられることはよく耳にしますが、入社して一、二年の私にもその重みを感じることができたことは、今でも私の誇りです。そして入社三年目の四月、急遽東京の本社に転勤となり、「人事部兼総務部」という、それまで全く縁のなかつた分野に一步踏み出すこととなりました。主な仕事は従業員の勤怠管理や入社、退社手続き、その他には健康保険、雇用保険、厚生年金などの手続きの管理等です。現在はほぼ一〇〇%事務職で、ホテルの現場とは全く違う仕事を

行っています。今のお客様は、一〇〇〇人を超える全国にわたる従業員です。毎日多くの従業員から給与や各種手続きについての質問を受け、その場では答えられないことがたくさんありますが、その都度調べ、答えるようにしています。今日指しているのは社会労務士の資格をとること。社会保険業務に携わるようになってまだ一年足らずですが、やるからには資格を持ってプロになりたい。ホテルの現場で味わった充実感を、今度は社会的に認められる「資格」という形で味わいたい。それが私の当面の目標です。そ

して今から三年後には、この新たな分野で大きな達成感を得ている自分がある。そんな自分の姿を想像しながら、気持ち新たに頑張っていきたいと思っています。

法曹を目指して

洞口靖崇
(平十八卒)



私は、学部の当時徳賀ゼミに所属し、会計学を勉強して来ました。ゼミの発表で基本的な会計知識と財務諸表を利用した企業分析を行って行く中で、企業分析の資金調達方法としての証券化やM&A戦略というものに興味を抱くようになりました。そして、そのような取引に携わる仕事をしたい。法律の知識を知ることが不可欠だと考えるようになり、社会人をはじめ、これまで全く法を学んだことのない人にも門戸が開かれている、法科大学院（ロースクール）に入学して法律を一から勉強し、会社法に精通する弁護士になろうと考えました。

法科大学院では、基本的な科目については約六〇名程度で構成されるクラスに分けて授業が行われています。最初に法科大学院に入学して実感したのは、予習・復習の大変さでした。入学前から大変という事は聞いていたのですが、慣れるまでは苦勞しました。大学院のほとんどの授業は、学部の頃と異なり双方向（対話）式で行われるので、受講者は予め課題について十分に予習して授業に臨むことが必要となり、授業の予習がかなり

大変です。どの講義でも、事前

に次回の授業範囲のテキストを読み、関係する法律や条文、判例を把握したり、与えられた予習課題に対する答案を作った日に臨まなければなりません。授業では、毎回先生からどんな質問が出され、それに答えなければならぬので、片時も気を抜けない緊張感があります。法学未修者は、三年間法科大学院で勉強することになり、初年度は未修者だけで構成されるクラスで法律の基礎知識を勉強します。未修者には社会人経験者や他学部出身者が多く、いろいろな話が聞けておもしろかったです。初めは、法律的な思考方法に慣れず大変苦勞しました。法律を勉強してきた友達にいろいろ教えてもらったりしながら、何とか乗り越えることができました。二年目からは、法学既習者と混ざったクラスで勉強することになり、より実践的な勉強をしています。学部で法学を勉強してきた人とは知識に大きな差があり、自分はまだ勉強しないといけないと実感させられます。現在三回生になり、実務家の先生から学ぶことも多くなっています。実際に仕事をされている方から話を聞くことで、自分もこういう仕事をしたいと思うようになり、また裁判官、検察官、弁護士それぞれ立場から指導を受けることになって、多様な視点で物事を考える大切さを学んでいます。

私の研究

京都大学大学院経済学研究科 教授

田中秀夫



私の修士論文はホップズ研究であった。予期せざる指導教官の交替があり、当時、迫力のあの研究がいくつか出ていたホップズを取り上げた。その後、「スコットランド啓蒙」を長く研究した私は、その間に、ポークックの「シヴィック・ヒューマニズム」に出会って共和主義研究に深入りし、今は、主としてスコットランド啓蒙の伝播との関係で、「アメリカ啓蒙」を研究し始めている。フランス啓蒙やイタリヤ啓蒙にも関心があるが、語学をこの歳で鍛えるのは辛いので、敬遠している。

私の主著は『啓蒙と改革——ジョン・ミラー研究』（一九九九年、名古屋大学出版会）だと自分では思っている。アダム・スミスの高弟ジョン・ミラーに出会ったのは、一九七三年頃であつたから書物に纏めるのに二〇数年もかかった。法学者であるミラーを経済学者のわたしがなぜ研究したのか。それは『階級区分の起源』（初版一七七年）という表題の本が、経済学部の上野文庫にあつたからだつた。当時、わが国の経済学史研究は、マルクス、ウェーバー研究やスミス研究で水準の高さを誇っていた。平井俊彦先生が専門にされていたフランクフルト学派も魅力的であつたが、私は田中真晴先生の指導に従ってイギリス経験論をやることにし、ヒューム、スミスをターゲットに

勉強を進めた。京大経済学部は古い時代の英語文献がたくさんあるにもかかわらず、東大や一橋などに比べると英米研究は弱く、ドイツとロシアが強いという印象があつた。人文研の河野ゼミではアルチュセールを読み、木崎ゼミではモンテスキューを勉強した。小林昇先生と水田洋先生に集中講義に来ていただいたのも勉強になった。

「田中君、普通に勉強すれば、一年に二本の論文ができます。そうすると数年に一冊の本ができます。」小林さんは、喫茶店でコーヒーを啜りながら、そう論された。こうした修業を経て、スコットランド啓蒙に主に取り組み、『スコットランド啓蒙思想史研究』（一九九一年）で学位を得た後、『文明社会と公共精神』（一九九六年）、『共和主義と啓蒙』（一九九八年）、『社会の学問の革新』（二〇〇二年）、『原典探訪 アダム・スミスの足跡』（二〇〇三年）などを出した。私がやってきたことは、十八世紀の遺産を、現代に無関係の古臭いものとして無視するのではなく、現代の諸問題を意識しつつ掘り起こし、再評価することである。自然科学のような明確な評価が難しい分野なので、どんな意味があるかと問われることもある。それは自分への問いでもあつた。改革と公共の徳、富の普及、腐敗批判などに関す



スコットランド啓蒙の到達点を示す
「忘れられた思想家」ミラーの主義を解説することによって、
文明的観点にたつ法なし統治の学問と、
共和主義思想との緊密な統合の姿を明らかにし、
その克己的な仕事の全体像を浮かび上がらせた力作。
名古屋大学出版会 定価（本体6,800円＋税）

る十八世紀の共和主義者や経済学者の議論を分析することによって、普遍的な価値とその具体化の文脈を追究してきたように思う。
翻訳もしてきた。ハイエク『市場・知識・自由』（一九八六年）では真晴先生を補助し、ポロック『徳・商業・歴史』（一九九三年）やハーシュマン『方法としての自己破壊』（二〇〇四年）は自分でやり、デイキンソン『自由と所有』（二〇〇五年）、ポロック『マキアヴェリアン・モメント』（二〇〇八年）では若い研究者に補助してもらった。
シュナイウインド『自立の創生』、ホント『貿易の嫉妬』は監訳で近く出る予定だが、前者は逸見修二君が頑張ってくれた。ハチスンやミラーなどの古典の翻訳も予定している。

二〇〇二年からは、科学研究費を受けての共同研究に力を注いできた。山脇直司さんとの共編著『共和主義の思想空間』（二〇〇六年）はその最初の研究成果である。「共和主義」の次に「啓蒙と経済学」に関するプロジェクトを行い、一期目の成果『啓蒙のエピステーメと経済学』（仮題）が年内に出版される予定で、共同研究は現在二期目になっている。
こうして振り返ってみると、単著も共著も翻訳も、すべて関連していることに気づく。「啓蒙と現代」という主題を掘り下

げてきたのだと思う。また多くの研究者との出会いが関連を形成してくれた。京大の先生では出口先生、大野先生と菱山先生の名前を挙げておきたい。「スミスの会」で出口勇蔵先生にお目にかかるのは楽しみであった。京大を離れられた杉原四郎先生との縁も特筆しなければならぬ。
ポロック先生との出会いは決定的だった。一九八八年に数日、東京、京都と奈良、大阪、神戸と一緒に旅をした。しかし、スコットランド啓蒙の研究者として私は、ポロックのボルチモアではなくエディンバラを留学の地を選んだ。三〇歳代で留学の機会をつかめなかった私は、四〇代の後半ようやくその機会を得た。デイキンソン、フィリップスン、ロバートソンなどとの出会いがあった。ロス、ウインチ、バロー、ホーコンセン、リーバーマン等々、彼らは私にとつては英会話の先生でもあったが、みんな私の研究に示唆を与えてくれた。
歳をとつてくると、いろいろな関連の仕事も引き受けなければならぬことが多い。自分の研究に集中できないことが多い。私もそうなのではないけれども、この数年やってきた研究を基に、いま『学問の国、未来の国』という本を書いている。これが完成したときに、私は自分の研究に自信が持てるか、失望するかはつきりするように思っている。自信が持てたら、いくつかの書きたいと思っている主題で本を書きたい。御歳九十二歳の小林昇先生からは最近音信がないが、最後の手紙では七〇歳までは頑張れとあった・・・

退任教員の紹介

平成二十年三月三十一日 定年退職
経済学研究科・経済学部教授

下谷 政弘

- 一九七四年 四月 大阪経済大学経営学部講師
一九七六年 三月 京都大学経済学研究科博士課程
一九七七年十二月 大阪経済大学経営学部助教
一九八〇年 四月 京都大学経済学部助教
一九八五年 三月 京都大学経済学博士の学位取得
一九八七年 四月 京都大学経済学部教授
一九九七年 四月 京都大学経済学研究科教授
二〇〇二年 四月 京都大学経済学研究科長・経済学部長
（二〇〇四年三月まで）

新任教官の紹介

平成二十年三月三十一日 退職
京都大学公共政策大学院教授

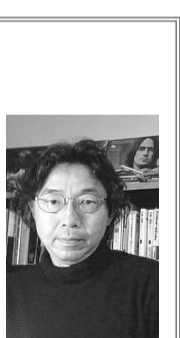
田尾 雅夫

- 一九七五年 三月 京都大学文学研究科博士課程
一九七五年 九月 京都府立大学文学部講師
一九七八年 十月 京都府立大学文学部助教
一九九三年 三月 京都大学経済学博士の学位取得
一九九三年 四月 京都大学経済学部助教
一九九四年 四月 京都大学経済学部教授
一九九七年 四月 京都大学経済学研究科教授
二〇〇六年 四月 京都大学公共政策大学院教授



劉 徳強
経済学研究科・経済学部教授

国経済は日本経済、そして世界経済にとつても非常に重要な要素になっていきますが、それに対する研究は必ずしも追いついていないのが現状だと思います。京都大学経済学研究科では、先輩の諸先生方のご努力によって中国経済を研究する大変優れた研究環境が用意されましたので、それを最大限活用して、微力ながらも京都大学における中国経済研究や中国との交流に貢献していきたいと考えています。
また、中国の経済発展に伴って、日本から学ぶべきものが増えたと痛感しましたので、日本の優れた経験や中国に紹介していきたいと思えます。



武石 彰
経済学研究科・経済学部教授

や、イノベーションをめぐる企業間分業のマネジメントなどを主たる研究のテーマとしています。京都大学では、従来の研究活動を継続しながら、学部・大学院での教育に注力し、同時に研究でも新たな成果を出せるよう努める所存です。新天地に身をおき、自分なりに新天地を切り拓いていきたいと思っております。どうかよろしくお願いたします。

就任年月日

平成二十年四月一日

担当講義科目

大学院／現代中国経済分析

出生地・生年月日

中国山東省
一九六三年五月二十一日

感想・抱負等

一九八二年に来日し、東京都立大学と一橋大学で経済学を専攻しました。京都大学に来るまで、東京学芸大学で十六年間教鞭を取りました。
改革・開放政策が取られてから三十年、中国経済は計画経済から市場経済へと大きく転換した結果、急激な経済成長が達成されました。それによって、中

就任年月日

平成二十年四月一日

担当講義科目

学部／経営戦略
大学院／企業戦略論、経営学研究法、技術経営

出生地・生年月日

東京都
一九五八年五月十五日

感想・抱負等

本年四月より経済学研究科に着任いたしました。経営戦略や技術経営の講義などを担当させていただきます。これまで一橋大学のイノベーション研究センターに勤め、イノベーションに関する研究に取り組んでまいりました。イノベーションの実現過程



経済学研究科・経済学部准教授
江上 雅彦

就任年月日

平成十九年八月一日

担当講義科目

大学院／ファイナンス工学1、2

出生地・生年月日

愛知県 一九六一年九月十九日

感想・抱負等

八四年に本学経済学部を卒業後、住友信託銀行に就職しまして、国内・海外で様々な業務を経験しました。その後、わが国でも九〇年代後半から盛んになりましたファイナンス工学という、金融業務とりわけ派生証券の価格付けやリスクの計量等に対する数理工学的アプローチに興味を持ちました。とっとう、本格的に研究しようと、二〇〇一年に同社を退職してプリンストン大学に海外留学致しました。Ph.D.取得後、ミシガン大学に

就職したのですが、今般幸いにも本学より准教授職を拝命致しました。

久しぶりの母校は、やはり格別なものがあります。アメリカの大学に比べれば緑も少なく(以前より減ってしまった気がしますが)、敷地も狭いのですが、いろいろな場所にそれぞれ思い出もあり感慨深いものがございます。例えば、今まで本学・本学部には何の恩返しもできておりませんでした。せっかく機会を頂いたのですから、微力ではありますが少しでも貢献したいと考えております。私の専門分野はわが国ではまだ比較的新しい学問ですが、教育・研究活動を通じて、本学から優秀な研究者・実務家を育てていきたいと願っております。

各支部からの便り

東京支部

平成十九年三月の支部総会以降の東京支部の活動状況をご報告する。

また毎回一〇〇名を超える出席者があり、支部会員の皆さんの旺盛な知的好奇心にも大いに感謝している。

二、各支部同窓会東京支部関係者の集まり

一昨年に全学同窓会が設立されて以来、大学本部(木谷前副学長)と東京における全学的活動について意見交換を重ねてきた。最後に頭の痛い話を。昨今の

一度関係者に集まって頂き、各支部の状況を聞いてみたらという事で、六月八日に京大東京連絡事務所(サピアタワー十階)に、法・経・医・工(五学科)・農(一学科)の東京支部関係者と本部木谷・川口両氏、総勢十四名が集会した。(連絡網の確立には時間がかったが)各学部学科とも、学士会館他で総会・勉強会等を開催している。まず勉強会の相互乗入れから始めて、連携を深めてゆき、将来の全学同窓会東京支部結成の基礎固めをしようという流れが出来たと考えている。

三、理事会でのスピーチより

常任理事会、理事会を各二回開催している。理事会には本部の先生を加えると毎回約三〇名が出席するので、外部の方にスピーチをお願いして、一層の活性化を図ることとした。

本年一月の理事会には、興銀OBでS四十六、京大・工卒の安藤晴夫氏をお招きした。現在、東大の渉外本部(総長スタッフ)でシニア・ディレクターとして産学連携を積極的に推進しておられる。東大のアグレッシブな活動に、京大も頑張れ、という感を強くした。

四、支部総会

三月四日東京會館にて第十八回の総会を開催した。本部から森棟学部長、西村副学長ほか諸先生に出席頂き、二〇〇名の出席者で楽しい夕べを過ごす事が出来た。講演は、経済学部S三十九卒のNTT和田紀夫会長(支部常任理事)にお願いで、「NGN(次世代ネットワーク)が目指すもの」をわかり易くお話し頂き、極めて好評であった。最後に頭の痛い話を。昨今の

諸物価高騰で、会合の食事代値上げが続いている。会費をすぐ上げる訳にもゆかず、今後はしんどくなりそうである。(合田隆年(昭三十五卒))

名古屋支部

・名古屋支部は愛知・岐阜・三重県在住の卒業生によって構成されています。

・支部の活動として、昨年十一月七日名鉄ニューグランドホテルに於いて、三年ぶりの支部総会・講演会・懇親会を開催しました。

・当日は昭和二十八年卒業の大先輩から平成十九年卒業の同窓会員一年生の方まで、幅広い年代から五十三名の会員の方にご出席いただき盛会となりました。

・真継支部長の開会のご挨拶の後、講演会では、大学から若林靖永教授をお招きして「顧客第一主義の崩壊と再構築」というテーマで大変興味深い講演をいただきました。

・その後の懇親会では高井副支部長の乾杯のご発声で幕を開け、会場のいたるところで旧交を温

める会員の皆さんの姿が見られました。

加藤副支部長の締めのご挨拶でお開きとなるまで、和やかな雰囲気の中で懇親会を進めることができました。

(澤田信也(昭五十五卒))

大阪支部

一、理事・幹事会

平成二十年一月三十日(水)に、理事・幹事会が大阪市内のガスビルにおいて、十八名の出席のもと開催された。河合支部長、来賓の森棟公夫京都大学経済学部同窓会理事長・経済学部長から挨拶があり、支部活動の状況、収支決算、役員人事等が審議された。特に役員人事では、空席になっていた副支部長を四名の理事に引受けて頂くことになりました。

二、第十七回大阪支部総会・講演会・懇親会

平成二十年一月三十日(水)



安居祥策中小企業金融公庫総裁のご挨拶



森棟学部長から先生方の紹介



和田紀夫NTT会長のご講演



に、大阪市内のガスビルホール・食堂にて、一一〇名の同窓会員の出席のもとに、盛大に開催された。河合支部長の挨拶、新副支部長四名の紹介、森棟公夫大学院経済学研究科長・経済学部長および同窓会理事長からご来賓の先生八名のご紹介があり、京都大学の近況や経済学部の活動を詳細にご説明頂いた。同窓会をご担当されている櫻田先生から一年間の活動状況のご報告がありました。

第二部の記念講演会として、京都大学経営管理大学院教授の若林靖永先生から「顧客第一主義の崩壊と再構築」という、興味深い論題で講演をいただいた。第三部の懇親会では、理事の



吉村昭道氏（昭四十一卒）の名司会のもとに開宴。冒頭河合支部長の挨拶があり、乾杯で幕を明け、来賓の教授からも挨拶を頂く等、和気あいあいに懇親を深めた。特にアトラクションとして、平成十九年卒の新会員でもあるヴァイオリニスト松尾依里佳さんの素晴らしいヴァイオリン演奏は出席の先輩諸氏に感動を与えるものであった。



三、大阪支部事務局（連絡先）
場所 大和ハウス工業株式会社
秘書室 気付
住所 千五三〇一八二四一
大阪市北区梅田三丁目三番五号
電話番号 〇六一六三四二一五一一五
FAX番号 〇六一六三四二一五一六
メールアドレス a.fujimura@daiwahouse.jp
(河合司二(昭三九卒))

神戸支部（神戸同好クラブ）

京都大学経済学部同窓会神戸支部は、経済学部同窓会が昭和三十五年「同好クラブ」として発足したのを受け、昭和三十六年三月、同好クラブ神戸支部として発足しました。その後、大学紛争等で経済学部同窓会が中断中も、「神戸同好クラブ」として、活動を続けて参りました。平成元年に同窓会再開後は、

同窓会神戸支部として、現在毎年一回懇親会を開催しております。会合の記録はホームページに掲載しております。ホームページのとおり、二〇〇八年は六月十八日に十四名で開催しました。在来の大企業の本社機能の東京移転などで毎年の出席者は減少傾向にあります。

また、リストもれで、ご案内をさしあげておられないかたも多数ございます。当地の同窓のかたで同窓会に参加ご希望の方

香川支部

第八回香川支部総会の開催

平成二十年四月十一日（金）、高松市の全日空ホテルクレメント高松において、第八回香川支部総会が開催され、支部会員二十二名が出席した。

総会では、まず支部長の岡野一郎氏（昭和三十七年卒）による挨拶の後、支部役員交代決議が行われ、新支部長に千葉昭氏（昭和四十四年卒、四国電力株式会社 取締役副社長）、新副支部長に渡邊智樹氏（昭和四十九年卒、株式会社百十四銀行 代表取締役 取締役専務執行役員）をそれぞれ選出、全会一致で承認された。その後、両氏から就任挨拶があり、香川支部のさらなる発展に向けて所信を述べられた。

総会後には懇親会を開催。出席者最年長の横関正氏（昭和二十一年卒）の乾杯により開宴した。

最初に、同窓会本部からのご来賓である森棟公夫経済学部長からご挨拶を賜った。森棟学部長は、かつて高松市に在住されていたという縁から、遠路わざわざお越しください、大学ならびに経済学部の現況などについてご紹介いただいた。その後、アルコールを交えながら、出席者それぞれに歓談。近況報告や学生時代の思い出話に花を咲かせながら、世代を超えて親睦を深めた。途中、記念撮影をはさんで、終始和やかに宴は進み、予定時

はホームページ記載のメールアドレスにご連絡いただければ幸いです。（小野昭夫（昭四十八卒））



香川支部 総会

間は瞬く間に経過。名残惜しみながらの散会となったが、その後、有志による二次会で、大いに盛り上がったことは言うまでもない。さて、香川県は、讃岐うどん店はもちろんのこと、四国の玄関口として、各企業の支社・支店が多いことでも知られる。転勤等で香川県に来られる方は、気軽に香川支部までご連絡いただきたい。

【香川支部 連絡先】
四国電力株式会社 経営企画部
吉田元信（平成七年卒）
〒七六〇一八五七三
高松市丸の内二番五号
TEL: 〇八七七八二一五〇六一
E-mail: yoshida1442@yonden.co.jp
(吉田元信(平七卒))

愛媛支部

一、支部概況

当支部は、会員数四〇名。そのうち、小粒な組織であるが、五〇年をこえる間、途切れることなく、元気に活動している。当地出身者で県外在住の方、また法学部など他学部卒の方などの参加もあり、年一回恒例会（懇親会）を開催、毎回二〇名程度の出席がある。

支部年会費は三千元、別に懇親会参加者の実費（五千円程度）負担をもって、運営している。近年は、地元大学関係以外には、新メンバーの帰住・加入が少なく、会員の高齢化が、年々進むという、如何ともし難い状況である。

一昨年秋、京都大学愛媛同窓会（全学）が発足し、昨年十一月の第二回総会（懇親会）には、八〇名を超える参加があった。今後の継続発展が期待されていることを、付け加えておきます。

二、恒例会・懇親会
平成十九年七月二十一日（土）

九州北部支部

一、会員数
二〇〇名程度
(地元企業・地方自治体等への就職者を中心に、東京・大阪に本社を置く企業の九州北部地区勤務者等により構成。)

二、役員氏名
支部長・鎌田 迪貞（昭和三十三年卒 九州電力(株)相談役）
理事・黒瀬 和男（昭和三十三年卒 西日本総合リンク(株)取締役社長）
理事・橋本 剛（昭和四十三

午後五時より、伊予銀行松山保養所にて例会。出席は十五名。松山大学・川東輝弘教授による「岡田温について―別子煙害問題をめぐって―」のレクチャーの後、本部より参加いただいた久野秀二准教授から、大学・同窓会の現況など、お話を伺い、懇親会に入る。八時散会。有志による二次会も盛会でした。

当年度第二回は、本年二月一六日（土）午後五時より、伊予銀行松山保養所にて。出席は十四名。まず昨十月二十日開催の同窓会本部、理事会・総会の模様を、出席した幹事渡部が報告。本部より来ていただいた、竹澤祐丈准教授より、経済学部の「授業計画及び講義概要」（平成十九年度）につき資料を基に説明をいただき、大いに啓発された。六時より、冬場恒例のふぐ料理にて懇親会開宴、八時終宴。二次会もありました。

(渡部晃夫(昭三十一卒))

年卒 国立大学法人九州工業大学 理事・副学長）
理事・藤永 憲一（昭和四十八年卒 九州電力(株)上席執行役員）
理事・葉真寺 偉臣（昭和五十一年卒 九州電力(株)情報システム部 部長）
理事・花田 恭一（昭和五十三年卒 (株)福岡スポーツセンター 代表取締役社長）

三、総会・懇親会
例年五月に年一回の総会・懇

親会を開催しており、今年度は五月十九日(月)にホテルオークラ福岡において、初参加の四名とオプザーバー参加の法学部卒一名を含め、二十七名が出席した。

総会では、鎌田支部長からの挨拶の後、ゲスト参加いただいた竹澤祐丈准教授から、大学ならびに経済学部の近況などを紹介いただいた。

その後、恒例となっている参加者全員による自己紹介を行った。一年ぶりの再会となったメンバーは、学生時代の思い出や京都への思いのほか、



九州北部支部 総会

最近取り組んでいる仕事のことなど近況を報告しあった。

・終始和やかな雰囲気で行われた懇親会の最後には、「琵琶湖周航の歌」(われは湖の子)と「逍遙の歌」を出席者全員で合唱するなど、世代を超えて懇親を深めることができた。

・役員会
適宜、役員会・懇親会を開催して、大学や同窓会本部の状況などについて情報交換を行っている。

・その他
同窓会本部のご協力により、同窓生名簿を毎年提供いただいていることもあり、総会・懇親会への出席者が着実に増加している。また、最近では三十歳前後の若い世代で年に数回懇親会を開催するなど、同窓生同士の交流も活発化してきている。

・今後、同窓会本部と連携を図り、同窓会の発展に努めたい。

九州北部支部連絡先

九州電力株式会社 経営管理室
〒八二〇一八七二〇
福岡市中央区
渡辺通二丁目一番八二号
TEL:〇九二七六一一三〇三
FAX:〇九二七六一一〇九四
E-mail: keisaku_shimozuru@kuden.co.jp
(下水流圭祐(平二十三卒))

九州南部支部

一、総会

総会では、瀬地山支部長からの挨拶の後、同窓会事務局本部からお迎えした、経済学研究科長・経済学部長 森棟公夫氏から学部の近況などについてご紹介いただいた。

▽役員(理事・幹事)について

平成二十年度の役員は次のとおり。

支部長: 瀬地山敏氏(昭和三十五年卒 鹿児島国際大学学長)

理事: 熊本稟理事 林田素行氏(昭和四十四年卒、林田公認会計士事務所所長)、宮崎県理事 岡野徹氏(昭和三十八年卒 旭有機材工業(株)相談役)、鹿児島県理事 丸元貞夫氏(昭和三十八年卒、阪東機工(株)取締役)

会計監事: 平成十七年度からご尽力いただいていた小田原雄蔵氏(昭和二十九年卒 株小田原商店取締役) から、会計監事を辞してその職を若い人に譲りたいとの意向があり、中村隆之(平成八年卒、鹿児島国際大学経済学部准教授) が選任され、満場一致で承認された。

二、講話

鹿児島国際大学経済学部教授 カムチャイライサミ氏(昭和五十四年卒)が、「グローバル金融危機と円の国際政治経済学」と題し、円キャリー取引の視点から見た日本の金融政策と国際政治の展望について、講話をいただいた。

三、懇親会

懇親会は、海江田順三郎氏(昭和二十八年卒 高島屋開発(株)代表取締役社長)の乾杯により



九州南部支部 総会

開宴。出席者それぞれの近況報告を行い、酒盃を交わしながら歓談し、少人数を忘れるかのような賑やかで、有意義な意見交換ができた。

※九州南部支部連絡先
鹿児島国際大学総合企画室
〒八九一〇一九七
鹿児島市坂之上
TEL:〇九九一六三〇七二七
FAX:〇九九一六一二二六〇六
メールアドレス
soso@akucj.ofc.juk.ac.jp
(大里和博(鹿児島国際大学))

京都大学経済学部
卒業五十周年記念同窓会
(昭和三十三年卒「燦燦会」)

山口 滋 (昭三十三卒)

我々昭和三十三年卒業組は「燦燦会」と称し、東京・大阪に分かれそれぞれ昼食会、ゴルフ会、囲碁会、忘年会、新年会等々を開催しており、今年で二

十五年になります。四年前の平成十六年四月には今回が待ちきれず「入学五十周年同窓会」に六十二名が集まり、今回の「卒業五十周年記念同窓会」を申し

合わせました。

時あたかも「源氏物語千年紀」を迎えている京都の地で、平成二十年五月十六日(金) 好天の下、時計台記念館国際交流ホールにて「記念同窓会」を開催しました。同窓生九十四名、夫人三名が全国から(アメリカからも)集まり、又来賓として西村周三副学長・森棟公夫学部長・櫻田先生(同窓会担当)をお招きしました。

同窓会は二部構成で、第一部は「清風荘」(旧西園寺公望公爵別邸、現総長迎賓館)及び本部構内見学、第二部はパーティー形式による懇親会で実施しました。清風荘は一般には公開されておらず人気上々で、他に歴史展示室・総合博物館等々を見学し、経済学部図書室所蔵の貴重図書(デカルト・ホブズ・ソール・スミス・マルサス・マルクス等の初版本)を櫻田先生の懇切なるご説明を頂きました。

その後時計台前広場にて八木貞憲・高橋實両君の胆入りで記念集合写真を来賓と共に撮影した後、第二部の懇親パーティーに移りました。

懇親会は、先ず二十四名の物故者の御霊に黙祷を捧げた後、司会から卒業後今日までの五十年を概観した後、東西代表(大森経徳、山本喜朗(西君)が挨拶、次いで西村副学長からご祝辞を頂き、森棟学部長の乾杯で懇親に移りました。席上、平成十九年卒の松尾依里佳嬢のヴァイオリン・アンサンブルが小曲を披露した後その伴奏で「琵琶湖

周航の歌」を、元ポト部整調大杉耕一君(本年「艇差一尺」を上梓)の指揮で合唱しました。合唱の際には全員が肩を組み合い五十数年前の学生時代に戻っていました。

お酒が進むにつれ懐かしい友との談笑の輪が無数に出来、又クラス別・ゼミ別の写真撮影が何度も行われていました。宴も終わりに近づき飯田道夫君の指揮で「逍遙の歌」を大合唱し、渡部展夫君の中締め挨拶で名残を惜しみつつ宴を閉じました。「樟若葉 学窓集立ち 五十年」(山本喜朗君)

最後になりましたが、御多用中最後までお付き合下さった西村副学長・森棟学部長・諸準備にお力添え頂いた櫻田先生、開催まで長期にわたり協力頂いた東西世話人の皆様に厚くお礼申し上げます。

(山口 滋(昭三十三卒))



卒業50周年記念同窓会(昭和33年卒)「燦燦会」